

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



### 「さくま草生農園」 佐久間清和さん

私たちの農園は千葉県北東部の東庄町にあります。坂東太郎と呼ばれる利根川の下流域にある、水運で栄えた町です。小高い丘陵地帯にビニールマルチトンネルが多い畑が広がる中に、ポツンと緑一面の当農園の畑があり、田んぼはその丘陵の入り組んだ所にある谷津田です。

### 自然農を始めたきっかけ

大学生のころは、まだ農業をする気はなかったのですが、毎年田植えや稲刈りの手伝いはしていました。大学を卒業する前に大きな冷害にみまわれた年、報道される状況が常に気になり、これから先のうちの田畑はどうなってしまうのだろうか」と農業を意識し始めました。ちょうどその頃、福岡正信さんの『わら一本の



革命』や、川口由一さんの『妙なる畑に立ちて』に触れて、そうだからこんな農業なら自分にや

れるかもしれない、「やろう」と決めました。

いざ農業と思い立ったのですが、情けないことに農家の息子だということに何ひとつ分からず、もちろん家族からも反対されました。当時、せっかく大学を出たのに就職もせずに農業を考えるのはおかしいと言われるのは当然でした。

まず、農業を勉強をしようと、新聞で目にした有機農業の先駆者である埼玉県の金子美登氏の門をたたき住み込み研修を一年しました。農業技術のみならず人としての生き方、様々な取り組みなど多くを学ばせて頂き貴重な

一年を過ごしました。

有機栽培で一通り野菜の育ち方を見たのですが、自然農という道でと考えていましたので、自然農の販売農家としての先達者である徳島県の自然農専業農家の沖津



一陽さんにお話を伺い田畑も拝見し、草とともに野菜が育っていること、そして家族が生き活きと暮らしていらっしやることに驚きました。

地元に戻り畑での実践が始まりました。就農間もなく、深刻な地球環境の状況の中、いざ何をすればいいのか考えさせられた時期に、地域の『地球村』のMMに通い講演会のスタッフをすることで、農業の道を選んだのは間違いではなかったと感じました。畑で野菜の世話をし、絶え間なくお客さんの元へお届けするのは易しいことではありませんが、励ましや喜びの声をいただくと嬉しくなります。お客さんの喜びが私たち作り手の喜びなのです。

## 私たちの目指すもの

私たちの目指すものは20年後、30年後、またいかなる時代が到来してもびくともしない農の姿です。多くの資材や燃料、肥料に依存しすぎるのではなく、種から始まり、自給レベルの高い、無理のない、田畑へと整えていくことです。また販売農家としては、お客さんが感動して下さるような、元気になって下さるような作物を手がけるのが大切だと思っています。無農薬や安心、安全というのは当たり前のことで、それが目標となっていては、まだまだの状態だと思います。作物を通じ世の中を少しでも明るくしていくお手伝いをすることが、私たち農家の役割だと感じています。今は、「千葉自然農の会」に属し、畑へ県内の皆さんをお呼びし、少しでも自然農に携わる人の役に立てればと、野菜との接し方などの研鑽を積んでいます。また、日本有機農業研究会の青年部の一員として、就農希望者向けの催し物、先輩農家への見学勉強会や体験談を聞く講座などを企画運営しています。昨年、全国各地88人のご協力のもと、新規就



農者のアンケートをまとめた就農希望者向けの本を作成し好評をいただきました。実際に農業を始める時、どうすればよいか分かるようになっていて、良いものが完成したと思っています。

## 草とともに生きる

さくま草生農園とは、草に生かされ、草を活かし、草とともに生きるという意味で名付けました。蒔かずして生える草々を敵とせず、いかに共存するかを考えることが、農業に取り組む上でとても重要だと思います。無限の太陽光を畑一面の草が無駄なく吸収し多く

の生き物を育み、土を肥やし、そして農家を養ってくれます。こんな草たちを粗末にはもったいないと思うのです。就農して12年経ちますが、毎年毎年が一年生のつもりで日々過ごしています。地球温暖化、高温化は顕著になるばかりで、日照りや大雨といった極端な天候になりつつあります。そんな時代でも、誰かに責任転嫁したり、不平不満を持たずに、全てを受け止め、全てに感謝し、田畑に通えたらと思っています。多くの方々の経験、お話を聞かせていただき、少しでも良い農家、百姓になれるように、これからも努力していきます。



### さくま草生農園

目指すのは自然の移り変わりにぴったりと寄り添った農家。自然の力がたっぷり宿った野菜やお米を食べてもらって、元気になってもらえるように毎日がんばっています。自然農による野菜の詰め合わせや、無農薬無化学肥料のお米など、配達はお試しもOKです。隔週、月1回、月2回、不定期などの要望にも応じています。

〒289-0624 千葉県香取郡東庄町小南 967

TEL : 0478-87-0351

FAX : 0478-87-0376

・日本有機農業研究会

TEL:03-3818-3078 FAX:03-3818-3417

・千葉自然農の会

TEL:03-3818-3078 (事務局・小野俊行)

このコーナ - に登場していただける方を募集しています。自薦他薦を問いません。メールでご連絡ください。

『地球村』事務局 mail: tusin@chikyumura.org